

令和3年度 自殺対策関係機関連絡会 会議録

令和3年12月27日

委員名	意見・質問等	回答
	【議題1】 自殺者実態報告	
鵜重委員	□R2年の千葉県、市川市の自殺の状況を知りたい。もう11月なのでデータは揃っているのでは？ □自殺の原因・動機に関して。ここ1、2年で目立った増加が見られた集団（10代、20代、女性、全体など、）では、この数年で原因・動機の割合で変化が見られたのか。その視点は今後の自殺対策に参考になると思われる。また、千葉県・市川市における原因・動機の割合も参考になると思います。 ※グラフは白黒でわかりにくいです。特に年齢階級別のグラフなど。カラーの資料を準備していただけると嬉しいです。	警察庁自殺統計（暫定値）によりますと、令和2年の自殺者数は県が1,023人、市が78人であり、前年に比べ増加しております。全国的に女性や20歳未満の自殺者が増加傾向です。住所地ベースの人口動態統計の確定値に関しましては、年明け以降になるかと思われますため今後も分析を続けてまいります。 令和元年の自殺の原因・動機に関しましては、健康問題、経済・生活問題、家庭問題の順に多くっており、令和2年も順番は同様ですが、健康問題及び家庭問題の割合が前年より増加しております。 千葉県の自殺の原因・動機につきましても同様の傾向が見られておりますが、今後の動向につきましても注視してまいります。
原田委員	令和2年の20代30代の未遂者が多いのは、新型コロナウイルス感染症の社会状況と関連があるのかもしれませんが。	自殺状況は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、職場環境の変化や学校運営状況の変化による影響も大きいことが考えられます。令和2年は若年層の他にも40歳代や65歳以上でも自殺未遂者が増加しておりますため、今後の動向に関しましても注視してまいります。
岩澤委員	市川市では女性（特に高齢者）がR2で増加していることが気になりますが、国や県でのR2.9月速報値ではR2下半期から自殺者が増加しているとの報告からも、コロナによる様々な制限等による影響なのか、興味深いところです。	令和3年版自殺対策白書によりますと、令和2年の男女別・職業の有無別の状況では、過去5年の平均と比較した際に、女性の有職のみが増加している状況です。原因・動機別の状況としましては、過去5年の平均と比較した際、男性では「健康問題」が最も多く減少しており、次いで「経済・生活問題」が減少しております。その中でも、健康問題では「病気の悩み・影響(うつ病)」、次いで「病気の悩み(身体の病気)」が減少しております。 対症的に、女性では「健康問題」以外の分類で増加しております。「不詳」が最も増加しており、「その他」、「勤務問題」「男女問題」の順に増加数が多くなっております。勤務問題の内訳に関しましては、「職場環境の変化」で増加率が最も高くなっており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により労働環境が変化した可能性があり、そのこととの関連も示唆されております。 今後も、県・本市の動向も併せて注視してまいります。
吉岡委員	全国が令和2年、千葉県と市川市の令和1年までの報告であるが、令和2年より自殺者数が女性で増加し、自殺死亡率が上昇に転じていることには留意が必要である。コロナ禍において、改めて女性の「うつ」への対応が必要と思われる。	当課では、新生児・1～2か月児訪問において、産後うつ質問票への回答を契機とした継続支援の実施や、「こころの健康相談」相談周知カードの全数配布を行っております。
新井委員	※意見、質問はありません。	-
山崎委員	今後見込まれる女性の自殺者急増に対応する必要があることを実感しました。また、未遂者である救急搬送のデータ等については、さらなる実態把握のため、他のデータとのクロス集計等により、どのようなリスク要因がトリガーとなり、それへの対応を協議できるとよいと思いました。	ご意見ありがとうございます。 庁内関係課とも共有させていただきます。
田辺委員	一番気になったのは、4-1の令和2年度の年齢別自殺者数（市川市）で、女性の20代だけでなく、50代、60代、70代、80歳以上が軒並み急増していることだ。人生の最後を心穏やかに過ごせない社会状況があるのだろうか心配である。	こころの健康相談では、匿名の相談が多いですが、およそ3割が50歳以上の相談となっております。悩みを抱える方の孤立を防ぐことができるよう、こころの健康相談や市川市民のテレホンガイドの周知を徹底して参ります。また、複合的な問題が絡んだ相談の場合には庁内関係課とも連携し対応して参ります。
金川委員	※意見、質問はありません。	-

後藤委員	コロナによる影響を受けての自殺者が増加しているのか、中々判別はつかないと思いますが如何でしょうか。倒産や経営難などによるものはどうでしょうか。	令和2年度開催した連絡会で令和2年3月25日～10月末時点では貸付の枠を拡大したことや、件数が増えていることを山崎様よりお話いただきましたため近況をお伺いしました。 ①現在で何件程度の貸付を承っているか ②令和2年度は最終何件だったか 以上の2点をお伺いしました。 この特例制度開始が、令和2年3月中旬に開始されました。つまり、令和元年度の年度末です。 このような事情から、今回のような問い合わせについては、制度開始当初から、直近までのデータをお示しています。 以下、制度開始～令和3年10月1日付のデータです。 ＞①現在で何件程度の貸付を承っているか、②令和2年度は最終何件だったか 1) 貸付相談実件数（※延べ相談ではなく、実件数です） 6, 828件≒7千件 2) 貸付実件数 ①コロナ特例 緊急小口資金（1回限り。単身15万円以内、複数世帯20万円以内） 4, 755件 ②コロナ特例 総合支援資金（単身 月15万円×3か月＝45万円、複数世帯 月20万円×3か月＝60万円） 3, 940件 ※①と②は両方申し込むことが可能です。 片方でも申し込めるため、延べ世帯では、 8, 695件ですが、 例えば、7千世帯弱の実借入世帯が推定すると、市川市の総世帯数は、約25万世帯ですので、市川市民の35世帯に1世帯が借りていることになるかと推定できます。 ※このほか、②を借りていた世帯で、収入が戻らない世帯対象の、 コロナ特例 総合支援資金の「延長」（単身 月15万円×3か月＝45万円、複数世帯 月20万円×3か月＝60万円）と さらに上記の「延長」終了後、収入が戻らない世帯に「再貸付」（単身 月15万円×3か月＝45万円、複数世帯 月20万円×3か月＝60万円）も実施しています。 つまり、必要に応じて、複数世帯では最大、 小口（20万円）＋総合（60万円）＋総合延長（60万円）＋総合再貸付（60万円）＝200万円 借りている世帯があります。 3) すべての資金の貸付延べ件数と総額 12, 984件 6, 393, 182, 500円で、約64億円の貸付総額です。 債権者、つまり貸主は全国の都道府県社会福祉協議会で、手続きは地元の市町村社会福祉協議会で行います。 また、この特例制度は何度も期限延長を繰り返してきましたが、現在のところ、令和4年3月末日でコロナ特例の貸付受付は終了するとのこととです。 以上の山崎様からいただきました情報も踏まえ、今後についても状況を把握できればと考えております。
北島委員	コロナ禍の中、20～30代の女性の自殺者、未遂者の増加は経済的な問題、就職難、精神的なストレス・不安感からでしょう。	ご意見ありがとうございます。 当課でも引き続き分析を続けてまいります。
山本委員	※意見、質問はありません。	-
吉原委員	令和元年まで右肩下がりだった自殺件数が、令和2年には増加に転じている。警察では、通常業務を通じて自殺企図者と接する機会も多いことから、関係機関との情報共有や相手の心に寄り添った聴取など、基本となる対応を職員間で再度徹底することで、1人でも多くの命を救うことが出来るよう全力を尽くしたい。	当課でも、悩みを抱える方への対応を再確認する機会として、昨年度ゲートキーパー研修を行いました。今後も悩みを抱える方に寄り添い、不安を軽減できるよう、関係機関の皆さまと連携しながら対応させていただきたいと考えております。
椎名委員	年齢・性別問わず自殺者は何らかの精神疾患をわずらっている可能性があり、そのケアができれば自殺者数は減ると思われる。	こころの健康相談の周知徹底と、庁内職員や多くの市民の方々にゲートキーパー養成講座を受講いただけるよう、事業を展開してまいります。

委員名	意見・質問等	回答
	【議題２】 令和3年度自殺対策事業実施状況	
鵜重委員	□こころの健康相談、保健師の相談件数、こころの体温計など、利用件数は多く、増加も見られ、様々な周知が結果として現れている印象を受ける。 □こころの健康相談、保健師の相談件数の利用状況の詳細を知りたい。男女比、年代別など。また相談内容の割合と、自殺の原因・動機の比較を示して欲しい。一致するのか、乖離があるのか。あるとしたら問題となるのか。 □こころの体温計のグラフ上で、件数が跳ね上がった月の★印は、周知した月と解釈していいのか？（★印の説明がないか、もしくは分かりにくい。）	こころの健康相談では、女性の相談件数の方が上回っておりますが、男性の件数も同程度です。相談の多い年代としては、男性で70代・50代・40代、女性で30代・40代・50代の順に多い状況で男女で差がありますが、年齢不明の件数も多く、より匿名性の高い相談を求めていることが考えられます。相談内容としては、うつや不安について、対人・家族関係の順に多くなっています。 保健師相談に関しましては、女性の相談が多数です。新生児・1～2か月児訪問で実施する産後うつ質問票から継続支援に繋がる方等、うつ症状に関する相談が多いですが、健康問題や家族問題、経済・生活問題等複合的な背景のある相談も増加しており、特に電話での精神面に関する相談が平成30年度から令和2年度にかけて1.6倍に増加しています。このような相談状況が自殺の原因・動機と乖離しているかどうかに関しましては結びつけて考えることが難しいところではありますが、今後年代別の相談内容等の動向を注視し、関係機関と連携しながら分析を続けてまいります。 こころの体温計の★印については、周知を行った月となっております。説明が不足しており申し訳ありません。また、資料に関するご意見を頂戴しありがとうございます。今後の資料作成で留意いたします。
原田委員	心の健康相談の周知の仕方が良かったのだなと感じました。今後も継続していただけたらいいのかなと感じます。こころの体温計もアクセス数が増えているのでニーズの高まりを感じました。今後もSNSなどを通じての周知をしていただけたらいいのかなと感じます。	今後もSNSの活用も含め、効果的な周知・啓発に取り組んでまいります。
岩澤委員	市川市こころの健康相談について、相談内容のうち、コロナ関連についてどの程度存在するのか、興味深いです。	庁内関係課とも共有させていただき、分析してまいります。
吉岡委員	こころの体温計の利用件数が増多し、市川市こころの健康相談は令和3年度は月129件と前年度に比べ倍増し99%が電話相談である。やはり対話は重要と思われる、こころの体温計の利用が、電話相談に繋がる形が理想と思われる。	こころの体温計から必要時相談窓口につながることは担当としても理想とするところです。今後も周知・啓発に取り組んでまいります。
新井委員	※意見、質問はありません。	-
山崎委員	相談件数の伸びが、支援継続の必要性を示していると感じました。特にうつ傾向を自分や家族が感じた時の、入り口相談としての周知継続が必要と思いました。その際、民間相談機関（例えば、市内民間障がい関係の機関など）の協力や委託方式も検討し、ハイリスクな夜間帯や休日対応等の必要性や今後の事業化も検討してはどうでしょうか？	庁内関係課とも共有しながら、周知継続してまいります。ハイリスク者支援については、先進的な取り組みがないかどうか等注視してまいります。
田辺委員	こころの健康相談で、全体として70代の利用が最も多いのが驚いた。市川市は高齢化が進んでいるのか、あるいは自殺者とも連動しているのかもしれない。相談できる力があるのは少し希望だと感じた。	幅広い年齢層に対応できるように今後も周知・啓発してまいります。
金川委員	※意見、質問はありません。	-
後藤委員	コロナ感染防止の中でも対策事業を行っているので大変良いことだと思います。	引き続き新型コロナ感染症等の社会状況の変化を踏まえ、効果的な対策について検討、実施してまいります。
北島委員	7月・8月・9月が多いのは、夏休みでありながら自由に動けないストレスの蓄積から男女共に不安・うつで相談する人が多いのでしょうか。年間通して働きざかりの30～40が多いのは大きな問題である。	当課では、夏休み前に市立小学校5～6年生、中学校全生徒へ若者のための相談ガイドをお配りし、保護者の方も含めた相談先の周知を図っております。今後も相談動向を注視し、関係課と連携して取り組んでまいります。
山本委員	令和3年度は、昨年と比べ「市川市こころの健康相談」の月平均件数が倍増しており、窓口の浸透の他、受付日時、電話、面接、WEBなど多様な手法で相談できるなど、住民ニーズに適した相談になっていると考えられます。相談者にとっては、即対応してもらえる相談しやすい体制が貴重であり、自殺対策に有効だと思います。	ご意見ありがとうございます。 当課でも、相談可能時間が従来より拡大したことや、相談方法及び場所の選択肢が広がったことにより、相談のハードルが下がると考えております。今後も相談傾向を分析し、効果的な実施について検討してまいります。
吉原委員	市川市こころの健康相談の相談件数が令和2年から令和3年にかけて倍増している。これは担当職員の皆様の周知努力のたまものであり、非常に心強く感じた。自殺を考えている人の中には、誰かに相談するだけで心が救われ前向きになれるケースも多いと思われるため、相談を必要とする多くの人に周知が出来るよう、警察においても各種機会を活用した周知徹底に努めたい。	関係機関との連携を大切にしながら、引き続き、悩みを抱える方が相談に繋がりのやすいよう周知を徹底してまいります。

椎名委員	電話での相談が多く、顔が見えない。可能な限り面接を実施したほうがよいと思われる。	ご意見ありがとうございます。 対面相談では相談者が安心して悩みを吐露しやすく、相談内容の共有がしやすいなどのメリットがあるかと思います。一方で、匿名相談の安心感を求める方もいらっしゃると思います。オンラインでの面接も含め、相談者の方ご自身が相談しやすい方法を選択し、相談することへのハードルを下げられるよう今後も実施してまいります。
------	--	---

委員名	意見・質問等	回答
	【議題3】 令和3年度（2021年）の中間評価について	
鵜重委員	Covid-19の影響下で、取り組みが進んでいるところが多いと思う。	国や都道府県をはじめ民間団体においてもSNS相談窓口が増えておりますことから、今後も動向を注視しながら取り組みについて検討してまいります。
原田委員	市民向けのゲートキーパー研修については、オンラインでの開催も検討していくと、目標値に近い参加になるのではないかと感じました。対面で参加するのを躊躇う方もまだまだ多いと思うので、対面とオンラインのハイブリッド方式が良いのではないかと考えます。また、SNSの活用は大変有意義と思いますので引き続きやっていただけたら良いと思いました。若者の最近の若者はネットでのやり取りが圧倒的に増えているので、SNSやインターネットを通じて相談できる機会が増えたと、さらに良いと感じました。	当課としましても、幅広い世代の方に安心してご受講いただきたく、オンラインを用いたゲートキーパー研修を今年度計画をしております。今後もゲートキーパーの裾野を広げることができるよう実施方法を検討して参ります。また、SNSでの効果的な周知に関しましても検討し実施してまいります。
岩澤委員	多岐にわたる施策について、よく分かりました。	ご意見ありがとうございます。関係機関、関係課と連携を図りながら施策を進めてまいります。
吉岡委員	「市川市民のテレホンガイド」は大変良く纏まっており、見やすい。しかし、周知や実績は少ないように思われる。自殺者増加の問題は深刻であり、御理解をいただいて、銀行や商業施設、コンビニなどに置かせていただくようにしたい	ご意見ありがとうございます。本市では、転入者の自殺が多いという傾向を踏まえ、市川市民のテレホンガイドを転入者の皆さまへお配りしております。また、市公式Webサイトにも掲載しておりますが、相談を必要としている方の目に留まり問題解決に向かう一助となるよう、いただいたご意見を参考にしながら、今後も配布方法を検討してまいります。
新井委員	※意見、質問はありません。	-
山崎委員	eモニターアンケートのまとめにもあるように、数年前から本連絡会での協議もされている、「24時間対応の相談窓口設置」はぜひ検討されてはどうか？また、〈基本施策3〉若い世代に対する支援の③市内公立小学校・中学校教員への相談カード配布数の次の展開事業として、小中学生それぞれに向けた相談カード配布を検討してはどうか？ また、虐待、親の経済状況、病気、友人関係など自殺リスクとも共通する子どもたちへの支援として、なるべく、窓口を1本化することが必要と思います。子どもたちにとって、わかりやすい総合窓口があるといいですね。 さらに、子どもの生活に家庭の次に近い学校に現在配置されているスクールカウンセラーでは難しいとされる、他機関調整やアウトリーチ型の子どもたちへの支援を考えると、千葉県では配置が進んでいない、スクールソーシャルワーカーの配置、特に学校常駐型配置を若者の自殺対策の面からも、意見提案してはどうかと思います。	24時間対応の相談窓口設置に関しましては、相談員が不足している等の体制の整備が課題となっております。引き続き、相談の時間帯等の相談傾向を分析しながら、国や県の実施状況等も注視してまいります。 市内公立小中学生への支援に関しましてもご意見を頂戴しありがとうございます。先にも記載させていただきましたとおり、小中学生に関しましては「若者のための相談ガイド」を配布しております。ガイドの表面には、今年度よりこころの健康相談やこころの体温計についても掲載を始めました。相談やこころの体温計利用の動向を追うとともに、相談窓口やアウトリーチ型支援に関しましても併せて庁内関係課と情報共有を図ってまいります。
田辺委員	市川市はゲートキーパー研修の実施や市民アンケートなど、この問題に積極的に取り組んでおられると感じた。ゲートキーパーの目標値は高いが、SNS等を利用して地道に周知を図ることができるのではないかとと思う。	SNS等も活用しながら、ゲートキーパーとしての関わりのポイントを認知いただき、日常生活で悩みを抱える方との関わりに活かしていただけたらと考えております。ゲートキーパーとしての役割を身近に思っただけよう引き続き周知を行ってまいります。
金川委員	※意見、質問はありません。	-
後藤委員	各種対策事業を行っているが、周知不足ということで今後の周知策に期待します。	自殺対策の取り組みについて市民の方の認識が高まるようさらに周知してまいります。
北島委員	10代～30代の不安要素がある人達への相談窓口の拡大、窓口がどこにあるのか周知する事も必要。	若い世代をはじめ幅広い年齢層に向け周知・啓発をさらに実施してまいります。
山本委員	年代別、性別など細かく分析されているので、今後の施策に活用しやすいと思います。	ご意見ありがとうございます。今後も年代や性別等、できるだけ細かく実態を把握・分析し、事業へ反映できるよう意識して参ります。
吉原委員	アンケート結果における約3割の人が「死にたいと思ひ詰めるほど悩んだことがある」と答えていることに驚きを感じた。ゲートキーパーや市川市における自殺対策についても約8割もの人が知らないなど、市内における自殺に対する関心の低さが浮き彫りとなった結果であり、市川署としても市川市や関係機関と連絡を強化し対応していきたい。	ご意見ありがとうございます。アンケート結果を踏まえ自殺対策の周知やゲートキーパーの認識が高まるようさらに周知・啓発してまいります。また貴署をはじめとする関係機関との連携をさらに強化できるよう取り組んでまいります。
椎名委員	まとめのとおり、SNSを活用し自殺対策、ゲートキーパー等の周知・啓発を実施してほしい。	今後より一層ゲートキーパー等の周知・啓発を実施してまいります。

委員名	意見・質問等	回答
	【その他】	
鵜重委員	□議題３の資料上、転入者への対応で、“テレホンガイドの配布”とのみ記載されているが、生活困窮者、片親、障害者などリスク因子で絞り込み、ハイリスクの転入者に支援の導入は出来ないか？ □市川市のホームページ、自殺対策の段落で、こころの健康相談（啓発、相談事業）で、「身近な人に『死にたい』と言われたら」という項目の追加はいかがでしょうか？ 実際の希死念慮に直面した時にゲートキーパーになってもらうのが啓蒙だと思います。もちろんゲートキーパー要請の各所にリンクを貼って。 ※資料はPPDF（カラー）でいただけると幸いです。今後はPDFのみでも結構です。	庁内関係課とも共有しながらハイリスク者支援について検討してまいります。いただいたご意見を参考にホームページの内容を精査してまいります。
原田委員	全体的に周知の徹底が大事なんだなと感じました。周知方法も複数のSNSを利用した周知が幅広い層での認知に重要だと考えます。 オンライン研修や動画の活用含め、コロナのニーズに合った対応を今後考えていく必要があるなと感じました。未遂者が増えているのは気になるところで、今後も心の健康相談は増えていくような気がするので、周知のみならず、実際の医療機関との連携やその後の相談先とのつながりは検討すべき課題なのかなと考えました。今後ともよろしく願いいたします。	ご意見ありがとうございます。コロナをはじめ時勢に応じた対応について先進的な取り組みがないか等注視してまいります。また医療機関や相談先との連携につきましては庁内関係課や関係機関とも共有、検討してまいります。
岩澤委員	詳細な資料と分析、ありがとうございました。申し上げにくいことですが、P7の5-1のグラフについて、線や点が判読しづらかったです。	ご意見ありがとうございます。グラフにつきましては改善してまいります。
吉岡委員	全国で令和1年より10・20代での死亡率が大きく上昇し、例年以上に若者の声を拾い上げる対応は必要と思われた。医療側からみると、良いことであるが高齢者サポートセンターに市民の多くの相談が寄せられている、担当職員の疲弊が心配であり、自殺に限らず相談内容を共有できるように支援すべきと思う。	ご意見ありがとうございます。高齢者サポートセンターをはじめ他の関係課や関係機関と相談の実態や内容を共有しながら支援連携のあり方について検討してまいります。
新井委員	資料も大変整っていると思います。これからもコロナが増えていくと思いますが、みんなで頑張りましょう。	ありがとうございます。今後も実態を把握・分析し、事業へ反映できるよう意識してまいります。
山崎委員	今後、コロナ禍における、今後の状況と対応について、自殺対策の面から協議していければそれぞれが参考になると思いました。	ご意見ありがとうございます。自殺対策については多角的に分析、検討し庁内関係課とも共有しながら協議してまいります。
田辺委員	千葉いのちの電話では相談の半数は精神疾患と思われる方からである。相談件数に占める自殺傾向は、令和2年度で13.6%、今年度4月～8月で12.4%と、市川市のこころの体温計のうつ度の数値と比較すると高い値になっている。市川市のこころの体温計のうつ度の割合は年齢が上がるにつれてレベルが下がっているが、これはSNSを使いこなせる高齢者は元気ということだろうか。	若者はSNSが広く普及している一方で、高齢者では若者ほど普及されていないことにより、本サービスの利用ハードルが高齢者ですと上がる点や延べ件数での集計となる点も関係していると考えられます。 高齢者の状況につきましては、庁内関係課とも共有しながら状況把握してまいります。
金川委員	今後も引き続き、障がいをお持ちの方が、社会から孤立せずに、安心して日常生活を送ることができる支援をしていこう、より心がけていきたいと思っております。	ご意見ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。
北島委員	小学校高学年から中学・高校・大学と心・気持ちをコントロール出来るような授業を始める。成績が最優先ではない事を周知徹底したらいいと思う。	ご意見ありがとうございます。教育部門をはじめ関係課でも共有させていただきます。